

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○学力向上について

全国学力・学習状況調査（令和7年度）において、全国の平均正答率（理科については平均IRTスコア）より国語では1.3P低い数値、数学では4.3P低い数値、理科では21P低い数値であった。中学生チャレンジテストやGTECの結果も含めて、学年や教科によって学力の結果数値が異なる。そのため、学校全体として各教科の学力を向上させることを課題としている。

学力を向上させるには、教員の授業力を向上させることも大切である。「ティーチング・エンパワーメント事業」を活用し、スクールアドバイザーによる授業参観を通じて、採用5年以下の教員の授業力向上に取り組む。また、2学期には、相互授業参観を実施し、一人ひとりの教員が「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業や一人一台学習者用端末を活用した授業を実践する。年間の授業を通じて、自分の考えを文章でまとめる力も養いたい。

○不登校傾向生徒に対して

不登校・不登校傾向生徒へのきめ細かな指導体制として、不登校生徒支援事業サポーターと緊密な連携により校内フリースクール「ゆるリラ」を運営している。また「いじめ不登校対策委員会」や「スクリーニング会議」により、SC、SSWと共有することで、見える化を図るなど、きめ細かな対応に努めている。さらに、オンライン授業配信に加えて、学習動画コンテンツ（スタディサプリ）の利用申請を促すことで、学習支援にも努めている。

○ICTの活用について

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に、デジタル学習基盤は不可欠であるが、効果的活用は、育成すべき資質・能力が十分に意識されず「深い学び」につながっていないのが課題としてある。また、端末の活用率も以前に比べ向上しているものの、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善は道半ばである。

「主体的・対話的で深い学び×GIGA」を中心に、授業改善等に取り組み、大阪市の「めざす子ども像」や「めざす教師像」に近づけるよう、授業イメージを刷新する取り組みを推進し、教員の情報活用能力の向上に努める。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を7.0%以下にする。
- 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90.0%以上にする

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85.0%以上にする。
- 「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を84.0%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 「授業で学習用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を80.0%以上にする。
- 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を30時間以下にする。
- 「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70.0%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

基本的な方向1 安全・安心な教育活動の実現

- 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

基本的な方向2 豊かな心の育成

- 年度目標アンケートにおける、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

- 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。

基本的な方向5 健やかな体の育成

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.15ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- 年度目標アンケートにおける「授業で学習用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を70%以上にする。

基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- 時間外勤務時間について、月100時間以上実施する教員をゼロにする。

基本的な方向8 生涯学習の支援

- 年度目標アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を68%以上にする。

3. 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立港南中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>基本的な方向1 安全・安心な教育活動の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 <p>基本的な方向2 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度目標アンケートにおける、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1-2 不登校への対応】</p> <p>不登校傾向生徒の居場所づくりと家庭支援の充実を図る。いじめ不登校委員会・主任会等で生徒の情報共有を充実させる。生徒の状況に合わせ、各関係機関を活用し、不登校生徒の見える化を図る。校内フリースクール「ゆるリラ」を学校組織に位置づけ、サポーターと情報共有・連携を行う。スクリーニングシートを活用し、生徒ごとに適切な支援・対応ができるようスクリーニング会議を充実させる。</p> <p style="text-align: right;">(生活指導部)</p>	
<p>指標</p> <p>年度末の校内調査において、不登校生の在籍比率を8%以下にする。【令和7年度5%】また、ゆるリラを利用する生徒が、教室復帰できるよう促し、その実績を作る。</p>	
<p>取組内容②【1-3 問題行動への対応 1-6 安全教育の推進】</p> <p>学校生活を通じて、日常的に全教職員で集団規律の確立を心掛け、あいさつ・適切な言葉遣い・服装・頭髪等の生徒の規範意識を育む指導を継続的に取り組む。</p> <p>生活指導部を中心に「いじめについて考える日」の取り組みを充実させ、いじめの未然防止と生徒の道徳的感情の育成に努める。</p> <p style="text-align: right;">(生活指導部)</p>	
<p>指標</p> <p>校内アンケートにおける「学校のきまり（規則）を守っていますか。」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を88%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【1-5 防災・減災教育の推進】</p> <p>「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。防災・減災に関する取り組みを関係機関と連携し実施する。</p> <p style="text-align: right;">(生活指導部)</p>	
<p>指標</p>	

<p>火災想定（１回）、地震想定（１回）の避難訓練を実施。区役所や消防署と連携し、ジュニア防災リーダー養成講座（２年生対象）を実施し、防災学習を行う。</p>	
<p>取組内容④【２－１ 道徳教育の推進】</p> <p>①「気づき１」を切り返し、“触発者”の立場から「気づき１」を多面的・多角的に捉え直す視点に特に重点を置いて、授業を展開する。</p> <p>②「グループワーク」を授業展開に盛り込み、生徒が「グループワーク」をしやすいような発問についての研究を進める。また、「グループワーク」を活用し、言語力を高める授業づくりに取り組む。</p> <p>③ねらいに即して、主人公の生き方から自分の生き方を見つめ直すような記述が生徒感想文に見られるようにする。</p> <p>④生徒の反応を見取るため、生徒感想文を活用する。</p> <p>⑤「いじめについて考える日」及び「いのちについて考える日」に全学年同じ道徳教材を使用して授業を実施する。</p> <p>⑥同一校区小中学校において、道徳科授業の合同研修及び相互参観を実施する。また、小中９年間を通して児童・生徒の豊かな心を育む道徳教育を推進する。</p> <p style="text-align: right;">(道徳・人権教育委員会)</p>	
<p>指標</p> <p>① 授業づくりについて全ての教員で共有するために校内研修を実施する（４月）。</p> <p>② 「グループワーク」を通じて、言語力を高めるために、自分の考えやクラスメートと交流したことをまとめさせ、書かせる。</p> <p>③④授業者は教材ごとに生徒１０名程度の感想文のコピーを各学年道徳科担当まで提出する。各学年道徳科担当はファイルに綴じ、保管する。</p> <p>⑤「いじめについて考える日」及び「いのちについて考える日」に全学年同じ道徳教材を使用して授業を実施する（５月）。</p> <p>⑥同一校区小中学校において、道徳科合同研修会を実施する（８月）。また、同一１・２学年生徒を対象に研究授業を行う。授業後、考察会を実施する（１２月）。校区小中学校において、道徳科の相互授業参観を実施する（３学期）。</p>	
<p>取組内容⑤【２－２ キャリア教育の推進】</p> <p>職業講話や職場体験、卒業生講話や高校出前授業および高校進路学習を行い、将来の進路選択に対する意識を養う。</p> <p style="text-align: right;">(キャリア教育委員会)</p>	
<p>指標</p> <p>１年生で職業講話と高校出前授業、２年生で職場体験と卒業生講話、３年生で高校進路学習、オープンスクールへの参加の積極的呼びかけを行う。</p>	
<p>取組内容⑥ー１【２－３ 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>国際理解教育、ハンセン病などの人権課題を通じて、互いを認め合い尊重出来るような人権意識を育む。</p> <p style="text-align: right;">(道徳・人権教育委員会)</p>	
<p>指標</p> <p>１・３年生で国際理解教育、２年生でハンセン病の取り組み、全学年で平和教育を行う。</p>	

<p>取組内容⑥ー２【２－３ 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>生命（いのち）の尊さやすばらしさ、自分を尊重し大切にすること（被害者にならない）、相手を尊重し大切にすること（加害者にならない）、ひとりひとりが大切な存在であること（傍観者にならない）ことを目標に、生命（いのち）の安全教育を行う。</p> <p style="text-align: right;">（性教育委員会）</p>	
<p>指標</p> <p>生徒アンケートにおける「学校では、生命の大切さや、仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と項目について、「あまり思わない」「思わない」と答える生徒を全体の35%以下にする。</p> <p>（令和7年度 「あまり思わない」34%、「思わない」1%）</p>	
<p>取組内容⑦【２－４ インクルーシブ教育の推進】</p> <p>一人ひとりのニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の在り方を工夫し、全教職員で共通理解を図る。肢体支援生徒・聴覚支援生徒への対応等、各教科担当者・特別支援担当者と連携し進める。</p> <p style="text-align: right;">（特別支援教育推進委員会）</p>	
<p>指標</p> <p>教員へ障がい者理解を深める研修を行う。</p> <p>各支援学校、関係機関と連携を図り、様々な支援方法の知識を深める。</p> <p>インクルーシブ教育推進担当と連携し、巡回指導等を活用する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立港南中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 <p>基本的な方向5 健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.15ポイント向上させる。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑧—1【4-1 言語活動・理数教育の充実】</p> <p>自ら問いを持ち、言語化することで課題を解決する力の向上を目指す。ICT 機器を利用し、相互に考えを交流して深め合い、対話や討論を通して協働的な学びを実現させる。言語文化への関心を喚起させ、多様な観点から語彙を広げるとともに、語感を磨く。</p> <p style="text-align: right;">(国語科)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を活用したグループワークを実施する。(読み物教材や文法の授業での実施率50%以上) ・習熟度別少人数授業を計画、実施する。 ・書写作品を制作し、他者の表現方法を知る機会を作る。(年間1回以上) ・ことわざや慣用句、故事成語の学習を定期的に行う。(年間70%以上) 	
<p>取組内容⑧—2【4-1 言語活動・理数教育の充実】</p> <p>事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、総合的・発展的に考えることで物事を捉える視点や考え方を育てる。</p> <p style="text-align: right;">(数学科)</p>	
<p>指標</p> <p>中学生チャレンジテストにおける数学科の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も1.0以上にする。</p> <p>全学年の数学の授業でのグループワークの実施回数を全体の授業数の5割以上行う。</p> <p>ICT 機器を取り入れた授業を数学全体の授業数の7割以上行い、視覚的に分かりやすい授業展開を行う。</p>	
<p>取組内容⑧—3【4-1 言語活動・理数教育の充実】</p> <p>教科書に基づく観察・実験を計画的に実施し、根拠に基づく考察や対話的な学びを重視する。班活動や発表、ICT 活用を通して思考の可視化と言語化を図り、日常生</p>	

<p>活と関連付けた探究的学習やデータ分析の力を育成する。</p> <p style="text-align: right;">(理科)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づき、観察・実験を各単元で計画的に実施する。 (実施率70%以上) ・授業において、生徒が自分の考えを説明・発表する場面を各単元で設定する。 ・ICTを活用した記録・共有活動を定期的実施する。(各学期5回以上など) ・探究的な課題に取り組む学習活動を年間を通して計画・実施する。 	
<p>取組内容⑨-1【4-2 主体的・対話的で深い学びの推進】</p> <p>「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進める」ことを念頭とし、授業やグループワークの最後に自分の考えをまとめる活動を行い、言語力を育成する研究授業を行う。</p> <p style="text-align: right;">(教務部)</p>	
<p>指標</p> <p>学習指導案を作成し、必ず1回研究授業を行う。(相互参観期間：8月～10月) 必ず3回以上は参観し、相互参観シートを提出する。 校内研修として、年次研を兼ねた公開授業を実施する。</p>	
<p>取組内容⑨-2【4-2 主体的・対話的で深い学びの推進】</p> <p>学力支援サポーターによる放課後学習(学習クラブ)を活用し、自学自習の力を養う。</p> <p style="text-align: right;">(教務部)</p>	
<p>指標</p> <p>各学年週2回実施する放課後学習会への自主的な参加者を毎回30名程度を目指す。 【令和6年度 約15名】【令和7年度 約17名】</p>	
<p>取組内容⑨-3【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の充実】</p> <p>授業内やレポートなどの課題を通して資料の内容を読み取り、自分の考えをまとめ、発表する機会を設ける。</p> <p style="text-align: right;">(社会科)</p>	
<p>指標</p> <p>各学年各学期に一回以上調べ学習やグループワークの授業、レポート課題などを行い、自分の考えなどを文章でまとめる機会を作る。</p>	
<p>取組内容⑨-4【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の充実】</p> <p>音楽的な工夫に対し、生徒が思いや意図をもって取り組む過程を大切に、音楽的対話を通じて仲間と共有したりすることで、互いの良さや工夫に気づけるような力を養う。</p> <p style="text-align: right;">(音楽科)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分の考えを説明・発表する場面を歌唱・器楽・創作で設定する ・音楽を形づくる要素とその働きとを関連づけて表現させ、協働的な活動を通じて音楽を作り上げる楽しさを実感させる 	
<p>取組内容⑨-5【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の充実】</p> <p>表現や鑑賞の幅広い活動を通して、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。</p>	

	(美術科)
指標 身近な文化や作品に触れ、グループワークを通して意見交流の機会を設定する。	
取組内容⑨-6【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の充実】 生活や社会の中から技術・家族・家庭や地域に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けさせる。	(技術・家庭科)
指標 ・生徒が問題解決に向けた自らの考えを説明・発表する場面を設定する。 ・よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
取組内容⑩【4-3 英語教育の強化】 各学年、英語教育のきめ細かな指導体制による英語力の充実を図る。 英語検定を全員が受験（3年生・2年生・年1回）。 英語検定実施（希望者・年2回）。 4技能・検定級に応じた「英語検定受験者サポート講座」「個別英語検定サポート」を実施する。（希望者・通年）	(英語科)
指標 チャレンジテストにおいて大阪府の平均数値を目標とする。 「大阪市英語力調査」(GTEC) CEFR A1 レベル (603級) 相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を60%以上にする。 【令和7年度 60.9%】【令和6年度 51.6%】	
取組内容⑪【4-4 全市共通テスト等の実施と分析・活用】 全国学力・学習状況調査、各学年中学生チャレンジテストの過去問題を授業・宿題等で行う。また、月2回の港南タイムを計画的に活用し、対策の時間としても活用する。	(管理職・教育課程検討委員会)
指標 全国学力・学習状況調査において国語および数学の平均点の対全国比を、1.1以上にする。 中学生チャレンジテストにおける5教科の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も1.0以上にする。 中学生チャレンジテストの前後で教科会を実施し、分析・情報共有を行い、教科全体として対策を行う。 【令和7年度 国語 0.93、数学 1.02】	
取組内容⑫【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】 体を動かす楽しさを大切にし、日常的に運動に親しめる機会を増やす。また、体育授業や行事等を通して体力の向上を図り、主体的に運動へ取り組む姿の育成を目指す。	(保健体育科)
指標	

<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートで「運動やスポーツをすることは好きである」という質問項目で、肯定的意見を86%にする。 【令和7年度 85.0%】 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国平均を男女とも超える。 【令和7年度 <男子 全国：42.20 学校：41.67 > <女子 全国：47.58 学校52.05>】 	
<p>取組内容⑬【5-2健康教育・食育の推進】</p> <p>食育だよりを発行し、食への興味・関心を引き出すとともに、自立や自己管理へつなげる。生徒自身に日常の健康観察に気をつけ、感染予防に努めるように啓発する。また、給食委員会を開き、校内のアレルギー生徒の把握し体制を整える。</p> <p style="text-align: right;">(庶務・健康教育部)</p>	
<p>指標</p> <p>月1回食育通信を発行、年8回食育放送日を設定し、食の啓発を行う。</p> <p>保健だより等で家庭への働きかけを行う。</p> <p>月1回給食委員会を開き、各学年と連携を取りながら情報を共有行う。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立港南中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度目標アンケートにおける「授業で学習用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を70%以上にする。 <p>基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 時間外勤務時間について、月100時間以上実施する教員をゼロにする。 <p>基本的な方向8 生涯学習の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度目標アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を68%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑭【6-1 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>心の天気の入力状況を月次で可視化・共有し、改善を図るとともに、学習用端末の効果的活用を推進し、実践共有による授業改善を進める。あわせて、ICT研修や情報共有を計画的に実施し、教職員の指導力向上と業務効率化を図る。</p> <p style="text-align: right;">(情報教育委員会)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の天気の入力率を月間ごとに作成し、教職員間で共有する。 ・学校アンケートで「授業で学習用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を80%以上にする。【令和7年度 33.4%】 ・教職員間で、ICT関連の情報を共有できる時間（サイトや研修等）を設定し、計画的に実施する。 	
<p>取組内容⑮【7-1働き方改革の推進】</p> <p>時間外勤務について、月100時間以上実施する教員をゼロにする。</p> <p style="text-align: right;">(管理職)</p> <p>指標</p> <p>○「ゆとりの日」を月に3～4回のペースで設定し、生徒指導事案や保護者への対応がない限り、18時30分までに完全退勤する。また、「ゆとりの日」以外の勤務日においても生徒指導事案や保護者への対応がない限り、19時まで完全退勤する。</p> <p>○部活動指導員の配置により、部活動指導の負担を軽減する。</p> <p>○各学年や各校務分掌、各委員会（4委員会等）において、業務分担を明確にし、業務を計画的に進める。</p>	
<p>取組内容⑯【8-3学校図書館の活性化】</p> <p>生徒の創造力を培い、学習に関する興味・関心をよびおこし、豊かな心を育む読書活動の場とする。図書館での活動を通して、本を選んで読む経験、読書に</p>	

<p>親しむきっかけを与える。また、昼休みや放課後の図書館は、教室内の固定された人間関係を離れ、年齢の異なる様々な人々とのかかわりをもつ場とし、校内における「心の居場所」となるようにする。</p>	
<p>指標 学校図書館補助員等の制度を活用し、蔵書管理及び開館業務を行う。図書館の開館時間を増やし、3学級12学級（407名在籍）において利用者数1350人以上とする。 【令和7年度3学年11学級（420名在籍）4月～12月まで1433人が来館】</p>	
<p>取組内容⑰【9-1教育コミュニティづくりと地域学校協働活動の推進】 校区小学校と中学校との連携を深め、中学1年生ギャップをなくし、中学校進学をスムーズに進める。また港区内小学校を対象に学校選択制説明会を実施し、中学校進学に向けての周知を行う。 (管理職・小中連携企画委員会)</p>	
<p>指標 小学校専科（外国語・体育）を通して児童の情報共有を行う。 小中合同の研修を実施する。小中教務主任会、管理職連携を行う。 港南アドベンチャーフェスティバルを実施し、参加者40名を目指す。 学校選択制説明会を年4回実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	